

第4章

10年後に目指すべき姿と
実現に向けた取組

1 10年後に目指すべき姿

- 伊豆諸島は、豊かな自然を有するなど魅力あふれる多くの特色を有している一方で、人口減少、少子高齢化、自然災害等の様々な問題や社会経済環境の変化による新たな課題を抱えている。
- 都は、これまで各島が持つ特性や直面する課題に対応するため様々な取組を着実に推進してきたが、今後はそれぞれのポテンシャルをより一層伸ばし、魅力を高めていくことが重要である。
- また、新型コロナは、社会経済活動の制限、外出・移動の自粛等の大きな影響を与えているが、それらに伴う新しい働き方・暮らし方等は、伊豆諸島の持続的発展の好機とも捉えることができる。
- 新型コロナ以前の社会に戻るのではなく、その先にある新しい暮らしを追求するとともに、持続可能な生活を実現するサステナブル・リカバリーの視点に立った取組を進めていく。
- 国・都・島しょ町村が連携していくことが重要である。都と島しょ町村がこれまで以上に緊密に連携・協力し、本計画の終了となる10年後の令和14(2032)年度には、伊豆諸島を取り巻く様々な問題を解決し、3つの未来の実現に向け取り組んでいく。

3つの未来

- ① 自らのポテンシャルの最大限の発揮と創意工夫により、島しょ地域の魅力と活力が大きく向上している。
- ② 本土と島しょをつなぐ様々なインフラの整備やデジタル技術の活用により、地理的制約が克服され、島しょ地域の可能性が飛躍的に高まっている。
- ③ 新型コロナや人口減少・少子高齢化等の直面する危機を乗り越えて、持続可能な回復「サステナブル・リカバリー」を成し遂げることで、島しょ地域の発展が図られている。

2 10年後に目指すべき姿の実現に向けた取組方針

- 10年後に目指すべき姿を実現するため、次に掲げる6つの方針の下に取組を進めていく。

取組方針 1

道路や港湾、空港等の交通基盤の着実な整備により、 交通手段が充実している利便性の高い島

- ・ 外海にある伊豆諸島が直面する多くの問題を解決するためには、本土と島しょ地域を結ぶ航路、航空路、島内のバス等の交通ネットワークの充実が重要である。
- ・ そのため、道路、港湾、空港の整備等の交通基盤を着実に整備するとともに、長寿命化や更新を計画的に推進していく必要がある。
- ・ また、本土と島しょを結ぶ交通手段と島内交通のシームレス化等、島民や観光客等の利便性向上を図っていくことも必要である。
- ・ 航路、航空路、島内交通等を快適に利用することができるよう、交通ネットワークの充実を図り、伊豆諸島の活力・魅力向上につなげるとともに、多くの人たちにとって利便性の高い島を目指していく。

取組方針 2

高度な情報通信基盤の整備とともに、 誰もがデジタル技術を活用しているスマートな島

- ・ 伊豆諸島が置かれている地理的制約を克服するためにはDXの力を活用していくことが重要となる。
- ・ そのため、最新のシステムの導入を促進し、通信環境の整備を進めるとともに、島民のデジタル意識の向上等を図っていく必要がある。
- ・ また、伊豆諸島がデジタル社会として成熟するためには、デジタル技術に接触しその価値を実感できる機会を増やすなど、全ての人々がデジタル技術の恩恵を受けられる「誰一人取り残さない」ための取組が必要となる。
- ・ こうした取組により、地域資源にデジタル技術などを掛け合わせた生産性と稼ぐ力の向上、付加価値の高い魅力的な産業への成長、次世代の農林水産業の確立へとつなげていく。
- ・ 5Gなどの高度な情報通信基盤が構築され、誰もがデジタル技術を活用しているスマートな島を目指していく。

取組方針 3

農業・水産業や観光産業等の活性化と 新しい雇用の場が確保・創出されている島

- ・ 伊豆諸島が活力と魅力にあふれる地域で在り続けるためには、産業活動が活性化し、雇用機会が確保されていることが重要である。
- ・ そのためには、伊豆諸島の持つ魅力的な地域資源を活用し、基幹産業を振興するとともに、新たな雇用を創出し、地域を持続的に発展させていくことが不可欠である。
- ・ 具体的には、伊豆諸島の有する魅力的な地域資源を活用し付加価値を高める6次産業化、農商工連携、観光振興等の推進が挙げられる。
- ・ こうした取組により、産業の活性化と、新しい雇用の場が確保・創出されている島を目指していく。

取組方針 4

医療・防災対策等の充実により、安全安心な暮らしやすい島

- ・ 伊豆諸島において住民が日々の生活を送るためには、生活の安全・安心が確保されていることが前提となる。
- ・ そのためには、誰もが健康で安心して暮らせる島の実現に向け、医療、介護等の体制の確保を図る必要がある。
- ・ また、南海トラフ巨大地震等の発生に伴う津波や気候変動により頻発化・激甚化する風水害等への備えを強化するなど、伊豆諸島の特性を踏まえた防災対策を進めていくことが重要である。
- ・ 地域の保健・医療体制の充実などに向けた取組を推進するとともに、DXの力を活用した計画的なハード対策や実効性のあるソフト対策等により防災力を高めていくことで、人々が安全・安心に暮らすことができる島を目指していく。

取組方針 5

豊かな自然に恵まれた環境にやさしい島

- ・ 伊豆諸島は、自然公園がその面積の多くを占めているなど、豊かな自然にあふれており、今後も、自然環境の保全を促進し、魅力ある島づくりを進めていく必要がある。
- ・ また、自然豊かな伊豆諸島は、魅力ある様々な観光スポットを有しており、これらを一層磨き上げ、より多くの旅行者を引き付けていくことが大切である。
- ・ 伊豆諸島は、多様な再生可能エネルギーのポテンシャルを有していることから、再生可能エネルギーの導入拡大やZEV(注)の普及促進などゼロエミッション化を進めていく必要がある。特に、太陽光、風力、波力、地熱などの豊富な資源を活用していくことが重要である。
(注) 走行時に二酸化炭素等の排出ガスを出さない自動車(Zero Emission Vehicle)の略称
- ・ そして、再生可能エネルギーの導入拡大は、新しい産業の創出や災害時の電力確保などの地域のレジリエンス向上にもつながる。
- ・ 豊かな自然と島民の生活が調和した環境にやさしい島を目指していく。

取組方針 6

関係人口の創出による移住定住の促進と誰もが果敢に挑戦できる環境が整備され、島内外の多様な主体を引きつける、人々の活力に満ちあふれている島

- ・ 10年後の未来において伊豆諸島が一層輝きを増すためには、関係人口を生み出す取組を進め、定住人口を拡大していくことが重要である。
- ・ 新型コロナ禍において、三密を避けた新しい生活スタイルが普及していく中で、人の流れも、都市部からの移住・定住の動きが見られる。
- ・ 伊豆諸島は、「新しい日常」におけるスタイルなどを作り出すポテンシャルを有しており、新しい発想を持ち、果敢に挑戦するUJIターン者の受入れに寛容である。
- ・ なお、伊豆諸島における定住の促進を図るためには、UJIターン者の住宅の確保を推進していくことが重要である。
- ・ 島しょ地域の魅力と活力の向上を図るとともに、関係人口の創出に取り組むことで移住・定住を促進し、活力にあふれる島を目指していく。